

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和4年4月1日

アンケート期間:令和3年11月10日~令和3年12月1日

中野区放課後デイサービスセンターみずいろ

保護者等数(児童数) 50 回収数 42 割合 84%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	39	2		風邪をひいている人がいたら部屋が別だといい。	一次保護室が開いている場合はそこを利用する
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	32	9			
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	38	3			
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	38	3	1	計画はされているが、具体的な対策がない。4年いるがあまり変化が感じられない。	作成時に保護者の思いも反映していきます。
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	36	6			
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	10	24	5	コロナ禍なので仕方がないですね。	おちついたら実施する
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	37	3	1	説明は受けたが理解できない部分もある。	不明な点を確認するよ に心掛ける
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	38	3	1	元気に過ごしてます。とか楽しそうでしたが多く。今日はこんなことをしてどう問題があったとか改善とかを書いて欲しい。	課題に対しての評価を 面談時以外にもお伝え できるように連絡帳や メール、電話などを活 用していく。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	40	1	1	面談はあるが助言はあまりないと思います。	お子さんの課題を生活 モデルとしてとらえ、必 要なことは何かをご家 族や学校と連携して考 えていく。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	13	23	4	コロナ禍なので仕方がないですね。もっと他の保護者との交流を持ちたいです。	落ち着いたら実施した いが、ネットを使ったコ ロナ禍での対応も検討 する。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	30	12			
12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	37	4	1	連絡帳はあるが、書いてあることが同じような内容でもったいない。	必要であれば電話や メールなども活用して 情報共有を密に心掛 ける。	

	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	35	4	1		
	14	個人情報に十分注意しているか	37	1	1		
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	37	3			
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	39	1	1		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	39	3			
	18	事業所の支援に満足しているか	39	1	2	アレルギー対応の件は満足していない。産業医も面談に参加していただき改善策を一緒に考えて欲しい。	栄養士や看護師の配置をしていないので今後採用検討をする

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和4  
年1月14日

公表:令和4年4月1日

中野区放課後デイサービスセンターみずい2

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	4	2	部屋と子どもの特性によって人数を変えて対応	
	2	職員の配置数は適切である	2	7	5		配置は適切であるが特に利用者に男性が多い為男性職員の増員を進める
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	12	1	1	手すりや多目的トイレも設置されている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	7	2		非常勤を交えて定期的に職員会議や朝礼などで話し合い共有する
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	6	1		改善すべき課題を取り上げ職員で協議し改善に務める
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	5	1	ホームページに掲載	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	7	2		改善案を考えて改善につとめる
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	1		OJTを毎月開催、外部の研修へも積極的に参加を推進	
適切	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	6	1		アセスメントの分析をもっと深く行い個別支援計画に反映する
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	8	3	半年に1度のモニタリングの際、諸活動におけるの適応状況を確認するツールを使用し評価	活動の視点だけではなく、IADLの視点のアセスメントツールの作成もしていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	4		事前に計画を立てている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	4		毎日記録を取っているのなるべく多様な活動ができるよう心掛けている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	6	1	話し合いによりバラエティーのある活動を提供している	

な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	9		その日の人数と特性に応じたグループわけをしている	もっと子どもに合わせた内容にする
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	7		土曜や学校の長期休み期間は朝礼での共有ができていないので連絡簿を職員に回して	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	7	2	翌日の朝礼などで共有している	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	5	1	翌日の朝礼で相談共有している	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	5		ケース会議を随時行い計画の見直しを行っている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	8			職員間で話し合いガイドラインを意識した活動内容にしていく
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	9			担当で事前にまとめて配布しケース会議時に意見をだしてもらいようにする
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	10	4		ダブルチェックを行うことでミスを減らしている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	9		対象外	対象外
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	10		児発管が作成したフェリスシートやその他の情報を共有して新規対応にあ	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	11		モニタリング時に支援内容を特に卒業に向けて取り組んでいる部分を共有するようにしてい	個別支援計画だけではなく、本人の得意なところや苦手なところについてまとめた資料を
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	8	1	発達障害について、アングーマネジメントや権利擁護についての研修に参加した	外部研修を引き続きできる限り受講し、資質向上に努める
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	7	5	コロナ禍で多くはできないが、近所のコンビニ体験などは行っている	コロナが落ち着いたら再開を検討
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	11		法人ないで情報の共有を行っている	議事録を職員間で回覧する等して、話し合われている内容について共有する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	6		連絡帳や送迎時に保護者へ様子をお伝えしている 定期的に面談もおこ	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	9	1		ペアレントメンターを交えての勉強会や相談会を定期的実施する
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	6		契約時に全ての項目の読み合わせを行い、不明な点も補足説明を行っている	

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	7		日頃、連絡帳でやり取りをさせていただき、相談事へも対応している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	9	1		コロナ感染症が落ち着いたら開催予定
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	5		職員会議や個別のミーティングで改善周知に努めている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	1		みずいろ便りを毎月発行	
	35	個人情報に十分注意している	12	2		個人情報は徹底して管理しており、外部資料は伏字を行い、書類は全てシュレッターをしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	5		毎日の連絡帳でやりとりや必要に応じて面談や電話などで話している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	10	2		コロナ感染症が落ち着いたら行っていく予定
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	4		マニュアルを一冊のホルダーにして配布 感染症情報などは掲示して周知	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	1		毎月防災訓練を行い。年一回緊急時に対する引渡し訓練も行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	2		ヒヤリハットや虐待防止委員会を作り研修等を定期的に行い意識を高めている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	7		身体拘束についての規定を作成 会議で話し合いをし、軽減をめざしている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	11	3		嘱託医による勉強会を行っている。 食べる前にダブルチェックを必ず行っている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	3		毎日朝礼で共有して PDCAを心掛けている	





